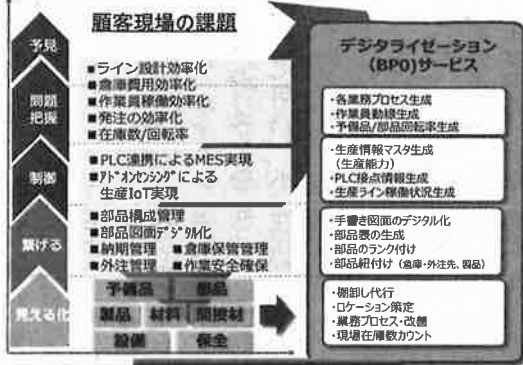


予備品/部品の見える化から始まる、製造業への深耕
そして、"経営KPIへの貢献"



日立システムズ

日立システムズは、「第30回設計・製造ソリューション展」においてデジタル技術を活用し製造業の現場の課題を解決するソリューションを提案する。

設備部品・予備品管理モジュールを前面

日立システムズは、ソリューションを提案する。今回は製造業の多くが課題として抱えている現場に出していく。

「統合資産管理ソリューション」事業推進本部という。これを解決するのが「設備部品・予備品管理モデル」。このソリューション

場の部品予備品、設備の見える化をサポートする「統合資産管理ソリューション」事業推進本部という。これを解決するのが「設備部品・予備品管理モデル」。このソリューション

多くの工場は生産ラインの最適化に取り組みIoTの導入検討を進める半面、生産設備を運用する際の部品や故障の際に必要な予備品の管理が十分できていないところが多い。同社によると、「大半の工場は部品予備品の課題について認識しているが最適化は膨大な工数がかかることから手を付けられ

「設備部品・予備品管理モデル」は、現場の技術者が現場に出向き、予備品、部品、材料、間接材、設備などを棚卸し代行しデジタル化を支援する。この領域を見える化することで、部品構成管理や納期管理、倉庫保管管理などの最適化ができるようになり、さらに制御の可視化に繋がる。「部品予備品の見える化が、より提案をしていく。

効果的なIoTを実現する」(同)とみる。現在、部品予備品の見える化に関する引き合いが一つ増え、大手製造業での導入も進む。既に数十社への導入実績がある。会場では現場の部品予備品の適正管理の支援を提案するとともに、セミナーを通じて実事例を交えた紹介も行う。併せてFAプロダクツと協業した協働ロボットの導入サービスも展示。日立システムズは、現場業務の最適化を実現する